

今年も九月に入り、年に二回のお彼岸ひがんの時期がやってきました。彼岸とは、かなた彼岸の岸と書き、お悟りの世界を表す仏教の言葉です。一方、私たちの住む世界は、彼岸の対岸にある此この岸で、此岸しがんと書きます。

お彼岸の期間には、お墓参りをし、亡くなった家族やご先祖様を偲び、墓前で手を合わせます。自分の家のお墓から辺りのお墓を見渡すと、そこかしこに、お花がお供えされています。それぞれのお墓には、ほとけさまが眠っていますので墓地全体には、多くのほとけさまが眠っていらっしゃることを実感します。

それぞれのお墓に眠るほとけさま、つまりご先祖様達が命をつなぎ、今の私達の命があります。今は、此方の岸にいる私達が墓前で手を合わせる側に立ちますが、また、時が経ち、いつの日か私たちがお墓の中に入り、彼岸にいるほとけさまとして、此岸にいる方々から手を合わせられる側になっていきます。

墓地に並ぶ古い墓石には、それこそ風化して命めいにち日も読みにくくなっているようなほとけさまもたくさんいらっしゃいます。時代を経た墓石を見ていると、此方の岸にいて、私たちが生きている期間よりも、彼岸に渡ってからの期間の方がずっと長いように思います。

その短い、此方の岸にいる私たち一人ひとりの人生においても、たくさんの人との出会いがあり、その人たちとの出会いが今の私を育ててくれました。すでに亡くなって、ほとけさまとなった方も少なくありません。皆、手を合わせに行きたい方々です。

いつの日か、私達が彼岸に渡ったのちに、手を合わせられる、ほとけさまになれるだろうか、と考えるとき、墓前にいる私たちにとって、今、生きて、するべきことは、いったい何であろうかと問いかけられるような気持ちになります。

まさに、この彼岸の時期こそ、改めて、私たちは、ほとけさまへの感謝の気

## 『 禅のこころ -曹洞宗- 』

---

持ちを伝え、かけがえのない一日一日を積み重ねて、彼岸へ近づいてゆく決意を伝える日としていきませんか？

— 終 —